# 第５回山ノ内町立適正規模適正配置等審議会 議事要旨

（開催日時・場所・出席者）

日 時　令和６年１０月３１日（木）午後５時００分～７時００分

場 所　山ノ内町文化センター　３階　ホール

出席者　（委 員）

・出席委員 ２１名

会　　長　原　　隆文　（元小学校長）

副 会 長　佐藤　重子　（主任児童委員）

高相　慎吾　（南小学校ＰＴＡ会長）

中島　学　　（西小学校ＰＴＡ会長）

小泉　一真　（ほなみ保育園保護者会長）※代理出席

杉戸　香奈　（よませ保育園保護者会長）

丸山　恵美子（すがかわ保育園保護者会長）

畔上　三行　（区長会会長・宇木区長）

芦原　喜久司（区長会副会長・上条区長）

内田　健一　（区長会副会長・穂波温泉区長）

下田　清人　（区長会副会長・須賀川区長）

湯本　文洋　（東小学校長）

中村　まゆみ（南小学校長）

竹内　由紀　（西小学校長）

山口　近　　（山ノ内中学校長）

鈴木　隆夫　（町子ども会育成連絡協議会長）

髙田　佳久　（町議会議員　社会文教常任委員長）

西澤　誠一　（公募委員）

佐藤　匡則　（公募委員）

田中　晴男　（公募委員）

湯本　市蔵　（公募委員）

（事務局）

山ノ内町教育長　竹内　延彦

山ノ内町教育委員会事務局　教育次長兼こども未来課長　望月　弘樹

山ノ内町教育委員会事務局　こども未来課　学校統合準備係長　山本　敏幸

山ノ内町教育委員会事務局　こども未来課　学校統合準備係　畔上　俊樹

欠席者（委員）

宮澤　昭雄　（東小学校ＰＴＡ会長）

高相　大作　（志賀高原保育園保護者会長）

宮崎　未希　（かえで保育園保護者会長）

傍聴者　５名　　報道関係　３社

１．開会　（望月教育次長）

２．会長あいさつ　　（原会長）

・信濃毎日新聞で長野県教育委員会が先進的学びの実践校を募集するという記事があった。武田教育長はその狙いとして、前例にとらわれず変わっていくことが新しい教育を作ることになると述べている。こどもたちが自由に学び方を選択することができる教育や異年齢での学習、学校生活の新しいルールづくりを行うなど、従来の学校の在り方を大きく変える取り組みが行われていくことで、こども一人一人に合った学びが追及されるようにという思いがあり、これからの社会を見据えた学校づくりを進め、学びの改革の実現を目指すという内容であった。

・町教育委員会から諮問を受けた事項について、本審議会が答申する時期が迫ってきており、審議をしっかり深めていく必要がある。未来に生きるこどもが学ぶ学校づくりの中身について、事務局から山ノ内町こどもワクワク教育未来ビジョン（案）が示された。その内容を踏まえて、本日はワークショップ形式でのグループ討議を行い、お互いの意見をしっかり聞き議論を深めてもらいたい。

３．会議事項　（議長　原会長）

・山ノ内町立小学校適正規模適正配置等審議会条例第６条により、原隆文会長が議長となる。

（１）今後の山ノ内町の教育について　（説明　学校統合準備係　山本係長）

＜配布資料＞①山ノ内町こどもワクワク教育未来ビジョン（案）

②３小学校の統合と共に目指したい山ノ内町の教育未来ビジョン

・これまでの審議会や保護者説明会において、学校統合を考えるうえで教育の中身についての意見が多くあったことから、現段階の教育委員会案を提示し会議の議論を深めてもらいたい。

・こどもたちに対する目指す教育について、「こども一人一人が自らの興味関心をワクワクしながら楽しく深めることのできる学び」を基本に、山ノ内町のこどもたちに願う姿として４つの学びを柱として、重点的に取り組んでいきたい。

①ＥＳＤ（持続可能な社会の担い手になるための学び）

②グローバル教育（外国語を習得し世界を学ぶ力をつける）

③スポーツ芸術（スポーツ芸術を楽しみながら健康的な体と心を育む）

④人権教育（シチズンシップ教育を育み自立的に社会に参画する力を養う）

・４つの学びをより効率的効果的に推進するために、義務教育学校（小中一貫教育）を進めていく。

・義務教育学校の特徴として学年区分が柔軟に設定でき、こどもの成長に合わせて９年間連続した学びが可能である。

・ＥＳＤ教育について小学校と中学校が別々になると活動も途切れてしまうこともあるが、義務教育学校では９年間連続した活動を計画的に取り組むことができる。

・異学年交流により精神的な発達も促進されることが期待できる。

・英語教育などで専科教員による指導が受けられ、早い段階から専門的な学びが可能。
・学校運営の観点から学校長が１人のため９年間統一した教育方針での活動が可能であり、教員同士の連携も容易となることで、授業や児童生徒のケアも連携が図られる。
・コミュニティスクールとして、町全体をフィールドに学校、家庭、地域が一体となりこどもの育ちを支える仕組みづくりを行い、魅力ある学校づくりをしていく。

（竹内教育長）

・昨年は統合場所が一番の問題となって議論が進まなかった。今年に入り審議会や保護者説明会での意見で教育の中身が大事であるということを受けて、山ノ内町らしい魅力ある教育、山ノ内町だからできる教育について整理し、「ＥＳＤ」、「グローバル教育」、「スポーツ芸術」、「人権教育」を４つの学びを柱として提案した。
・４つの学びは既に各学校で取り組まれているものであるが、さらに内容を充実させ推進することにより、０歳から１５歳の中学卒業までにしっかり学ぶことで、これからの社会を生きていく力や意欲が身に付き、たくましくしなやかに育ってくれると考えている。
・４つの学びを推進するためには、地域の協力がなければできないと思っている。町全体として一つのコミュニティスクールのイメージを強くしてしっかり推進する必要がある。
・小学校から中学校の９年間を切れ目なくこどもたちのペースに合わせて、丁寧で充実した学びができる環境にしていくには、９年制の義務教育学校にしていくことが目指すべき形と考えた。
・横の広がりとしてのコミュニティスクール、縦のつながりとしての義務教育学校を一体的にとらえ、縦横の立体的な環境づくりを進めていくことで山ノ内町の特徴的な教育として推し進めていければと考えているので意見をいただきたい。

（２）学校統合にかかる意見交換（グループ討議：１時間）

審議委員から学校統合に係る意見をより多く聞くため、Ａ～Ｄの４グループ（６～７人）に分かれ、「統合の時期」、「義務教育学校」、「コミュニティスクール」の３つを議題にワークショップ形式で意見聴取、意見交換を実施。

**【統合の時期について】**

統合の時期は早くした方がよいのか、議論を重ねてから統合した方がよい　　など

**【義務教育学校】**

義務教育学校の設置にかかる賛成・反対意見、どのような教育をしてほしいか　など

**【コミュニティスクール】**

地域と学校の関りや取り組み内容について　　など

（３）グループ発表

グループ討議で出された意見や議論した内容をグループごとに発表。

Ａグループ

**【統合の時期について】**

・統合について早い遅いといった議論より、こどもを中心とした教育の中身の議論をしっかりしてから統合の時期を決めた方が良い。

・保護者や地域の合意形成が大事である。

【義務教育学校】

・小中を一緒にすることで通学の距離が長くなるということが大きな課題である。

・小中の連携や異年齢との学び、一人一人の学びをつなげていくということは進めてほしい。

・４つの学びの柱を中心に９年間継続して教育していく考えは賛成する。

【コミュニティスクール】

・既に充実した取り組みが行われているが、全町一体となって進められるとさらに良くなる。

・地域とのつながりが統合によって薄れてしまうのではないかと不安に感じるので、全体でしっかり取り組む必要がある。

・こどもたちが安心できる居場所づくりとして、地域と一緒にコミュニティスクールを充実させていき、取り組みを推進していく必要がある。

Ｂグループ

【統合の時期について】

・長い期間をかけて議論してきた。そろそろ統合を進める時期であり、ハード面（学校施設整備）のレイアウトを示す時期ではないか。

・学校整備の決定事項を示せば保護者は理解すると思う。いつまでも進まない状態で、学校統合に関して冷めている印象がある。

【義務教育学校】

・９年間の学校でお互いに成長や学びが見て取れる義務教育学校の方向に進むことは賛同する。

・９年間の学校に適合できないこどもがいるので、心のケアや各種支援を行ってほしい。

・４本柱の教育をさらに強化してこどもの人材育成につなげてほしい。

・学年を超えてお互いに上下関係を見合えることは育ちには大切。

・町のＥＳＤ教育は良いと思う。９年間の学びでさらにブラッシュアップができるのではないか。

【コミュニティスクール】

・今まで行われている取り組みは充実している。地域からたくさんのことを学んでいる。

・統合後も地域と学校のつながりを大切にしながら、こどもたちの自己肯定感を育んでほしい。

・町全体をフィールドに地域の人の協力を得ながら学習できることは大切。

Ｃグループ

【統合の時期について】

・早めに進めた方がよいとの考えはあるが、開校、閉校の準備期間や一度決定したら何十年先まで続くため時間をかけて慎重に進めた方がよい。

・今のうちに検討や準備を進めて、数年後に統合をしていけばよい。

・こどもの意見や考えを聞くことも重要である。アンケートなどでこどもの意見を聞いてほしい。

【義務教育学校】

・４つの学び､特にＥＳＤ教育を進めるうえで義務教育学校はより効率的で効果的だと思う。

・異学年交流は小学生が中学生に憧れを持つなど、魅力的であり義務教育学校の方がよい。

・小中の節目が必要との意見について、６年時に終了証を交付している実例もある。信濃小中学校の視察の際に確認してみてはどうか。

【コミュニティスクール】

・町全体をフィールドに様々な体験を行うことは、とても良いことであり拡大して進めるべき。

・町全体のエリアが広いため、地区の特徴を生かし活動拠点などを分けて活動することも必要。

Ｄグループ

【統合の時期について】

・統合は急いでするのではなく、教育の中身をしっかり議論したうえで進めていくべき。

・このまま統合議論ばかりしていても進まないため、教育の中身と両輪で統合時期、場所を検討していく必要がある。

・統合学校の新築となると５年はかかるため、統合の目途を５～６年後を目標にしてはどうか。

【義務教育学校】

・義務教育学校の制度についてよく理解していない部分もあり判断が難しい。

・学習面においては義務教育学校の方がよいと感じられ、教科担任制は積極的に進めてほしい。

・教員は小中両方の免許を持っている必要があり、教員不足になる課題が出てくる。

・小中の区切りは大事である。最初は小中一貫併設型の学校で小中学生が学びあえる環境の方がよい。義務教育学校か小中一貫いずれもメリット､デメリットがあるので検討が必要。

【コミュニティスクール】

・統合してもＥＳＤ教育を中心にさらに推し進めて取り組んでほしい。

・統合により４つの地域がまとまれば、コミュニティスクール全てを継続して取り組むことは難しい。つながりがなくなってしまう部分もあるけれど、東南西北の自然や伝統文化などそれぞれ特徴を生かした内容をよく検討して選択していくことが重要。

○グループ討議まとめ（原会長）

・「統合の時期」、「義務教育学校」、「コミュニティスクール」を議題にグループ討議で委員それぞれの意見が出たと思う。

・コミュニティスクールについては、４つのグループで好意的でさらに推し進めてほしいという意見が多かったように思う。

・統合の時期や義務教育学校については、それぞれの課題や意見等が出ているので、思い大事にして議論を深めていきたい。

４．その他

・１１月２１日（木）に信濃町立信濃小中学校（義務教育学校）の先進地視察を実施する。

・次回審議会は先進地視察後の１１月下旬を予定。

５．閉　会